

スタッフ体制が充実した  
町立厚岸病院理学療法室を紹介します

## 理学療法士と作業療法士による 総合的なりハビリテーションを実施



写真右から、佐藤英樹(作業療法士)、佐藤友彦、久米正志、南條元(理学療法士)、前川健太(実習生)

今年4月から、今までの理学療法士のほかに作業療法士が加わり、スタッフ体制が充実した町立厚岸病院理学療法室。現在、久米正志技士長を中心に、3人の理学療法士(P.T.)と作業療法士(O.T.)1人の4人体制で、町民の皆さんのリハビリテーションに取り組んでいます。

一般的に理学療法は、身体に障害を持った人の身体機能や身体能力が最大限に回復できるように、運動や体操を行ったり、電気刺激やマッサージなどの物理療法を行います。また作業療法は、身体や精神に障害を持った人に対し、作業活動を通じて機能の回復を図り、自立的な生活ができるように訓練や指導・援助を行います。

久米技士長は、「平成18年度から法律の改正により疾患別のリハビリができるようになり、理学療法士と作業療法士と一緒に取り組むことにより、総合的なりハビリが可能となりました」と話します。

昨年4月には、佐藤友彦、南條元理学療法士が加わり3人の理学療法士で、運動・物理療法や日常生活活動練習を中心に治療にあたってきました。その中でも厚岸の患者の特徴として「全体的な患者の割合としては、肩の障害を抱えている人が多いと感じています。これは昆布や水産加工場に勤めている人が多いためです」と分析しています。

また、4月から勤務している佐藤作業療法士は「出身が釧路で厚岸は馴染み深い土地です。作業療法士とは何を

する人なのか皆さんには浸透していない部分があるので、まずは作業療法士とは何かを知ってもらいたい」と話します。

理学療法士と作業療法士は、法律に基づきそれぞれの役割が定められています。しかし、一緒に取り組むことにより、不足する知識を相互に補うことが可能になり、より地域に根付いたリハビリテーションを行うことができるようになりました。

最後に久米技士長は「障がい児への取り組みを軸として、障がいを持っても人として普通に生活できるノーマライゼーションの教育に残りの時間を費やしていきたい。そしてノーマライゼーションが厚岸に根付いていくことを願っています」と、抱負を語りました。

### 【理学療法室スタッフより一言】

●理学療法士／佐藤友彦  
少しずつ厚岸になじんできました。これからも一生懸命がんばります。

●理学療法士／南條元  
自然豊かな厚岸でどっぷりと密着した暮らし・仕事をしていきたいです。

●作業療法士／佐藤英樹  
生活に近い部分でのリハビリ、訪問リハビリ等を確立していきたいです。

●実習生／前川健太  
自然豊かな厚岸で、いろいろなことを学びました。この経験を今後活かしていきます。